

下北原発地点海域温排水等影響調査

(要 約)

早川 豊・小倉大二郎・中西 広義

I 潮間帯生物調査

調査方法

- 1) 調査年月日：第1回 昭和53年6月8日～9日
第2回 昭和53年10月31日～同年11月1日
- 2) 調査地点：下北郡東通村白糖前浜から小田野沢までの間11kmの潮間帯について9地点
- 3) 採集方法：干潮時、砂浜地帯では方形鉄枠を砂面に打ち込みその内側の砂と共に生物を採集し、1mm目の篩で篩分け、篩上に残った生物を持ち帰った。岩礁地帯では写真、肉眼観察した後、枠取り法により枠内生物を持ち帰った。採集物はすべて現場でホルマリン固定した。持帰った生物については種類毎の個体数を測定した。

調査結果

- 1) 砂浜地帯では、第1回調査で約10種、6164個体の砂中埋性動物が採集され、シキシマフクロアミが77.0%、ヒメスナホリムシ21.8%、ヨコエビ類、ハマダンゴムシ、多毛類、ニホンコツブムシ、ホタルガイ等の順であった。第2回調査では約5種、3415個体の砂中埋性動物が採集され、シキシマフクロアミ69.8%、ヒメスナホリムシ29.4%、ヒメハマトビムシ、多毛類等の順であった。
両回ともシキシマフクロアミ、ヒメスナホリムシが卓越し、シキシマフクロアミは汀綿、ヒメスナホリムシは中潮帯を中心に広く分布し、高潮帯ではハマトビムシ類、ハマダンゴムシと棲み分けがみられた。
- 2) 岩礁地帯では両回とも多種の生物が分布し、通常ウミトラノオ、フジマツモ、石灰藻類、タマキビ類、フジツボ類、カサガイ類、イガイ類等がみられ、夏場を除くとフクロフノリ、マツモ等の有用海藻がかなり長期間みられた。また、海藻類やイガイ類の基部にはヨコエビ類、コツブムシ類等の小型甲殻類、巻貝類、二枚貝類、多毛類等が多量に分布し、これら小型動物は第1回調査ではかなり多量に採集された。
- 3) 砂浜地帯では種組成、分布が単純であるが、岩礁地帯では生物相が複雑で有用海藻もみられるのでこれら岩礁域での生物の変遷をとらえる必要があろう。

詳細は「昭和53年度下北原発地点海域温排水等影響調査結果報告書」を参照されたい。